

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370102885		
法人名	(株)ベネッセスタイルケア		
事業所名	くらら門田屋敷		
所在地	岡山県岡山市中区門田屋敷3-5-20		
自己評価作成日	令和5年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370102885-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370102885-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和5年3月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・ご入居者お一人お一人に沿った日常生活、健康面に注視しながらお気持ちを表すことができる環境に努めています。心身の変化に合わせてながら自発性ややりがい、役割を大切に自分らしい生活が送れる支援に努めています。  
 ・ご本人の思い、ご家族の思い、支援する職員の思いを軸にした生活プランの作成を深めています。  
 ・お一人おひとりの「食」に焦点をあてた支援を深めています。  
 ・地域交流を目的とした活動が制限される中であっても(資源回収・町内清掃・ハロウィン・餅つき等)を感染対策を行ないながら実施し、ご入居者、ホームが地域の一人としての役割を担えるよう努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

まだ介護保険制度が始まる前からこの地にある草分け的存在の「くらら門田屋敷」は令和4年12月18日に「創設25周年のお祝いの会」、テーマ「let it be～ありのままに」を実施した。まだまだコロナ禍の為、盛大にはいかなかったが25年という四半世紀の歴史の節目を迎えた。ホームの隣には岡山医療福祉専門学校があり、コロナ禍でも実習の場は必要であると積極的に実習生を受け入れ、本日もベトナム人の男性実習生が来ていた。職員も介護に向き合う姿勢が勉強になると、良い相乗効果をもたらしている。利用者も重度化が進み介護度の高い人が多いが、一人ひとりの能力や思いを大切に、「生きがい」「役割」「小さな幸せ」等を見つけながら、利用者・職員・地域の人と「音・風・光」をコンセプトに設計されたこの第二の自宅と共に生きている。各種の記録や取り組み方を見ても、新しい物を取り入れて改善していこうとする意欲や柔軟な姿勢がよく伝わり、これからも進化し続けるホームと思う。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	お客様と従業員の「よく生きる」を実現する為に「ベネッセスタイルケア宣言」を従業員と年1回研修を実施。ベネッセスタイルケア従業員として「5つの行動宣言」「10の行動基準」にて自分が入りたいホームであるかまた、自分の親や大切な人を任せられるホームが日々考えた行動をしております。	職員との会話や姿勢からも「その人らしさに深く寄り添う」という理念がしっかり浸透し、利用者と共に生きる」心意気が伝わってくる。このホームの25年間を支えてきたのは、職員達の真摯にケアに向き合う努力の積み重ねの成果だと思う。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍ではあるが、日々の何気ない挨拶、毎月の資源回収、年末の地域清掃、敬老の日、ハロウィン等、その時の状況で可能な事をおこなった。	地域の人や子供達が楽しみしているハロウィンも4年目となり、その日は近隣の方々や通りすがりの人、子供達が多く来てくれた。隣の岡山医療福祉専門学校の実習生も受け入れており、今日はベトナムの実習生の姿もあった。出来る範囲で地域交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月実施していた1回の認知症カフェ「おだんごカフェ」、認知症サポーター養成講座等の開催がコロナ禍の中実施出来ていない。資源回収の協力、実習生の積極的な受け入れ等、今出来ることをおこなっていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため対面での実施は出来ていない。ホームの取り組みや運営状況をお手紙の形でお渡ししお知らせさせて頂いている。メンバーの町内会長様、民生委員様、老人会会長様がホームの事を気にかけて下さる。	利用者と自社職員等が参加して昨年12月に創設25周年のお祝い会をした。まだまだコロナ禍の為、参集しての開催ではなかったが、運営推進委員や家族には運営推進会議(運営懇談会)の議事録を送付し報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岡山市事業者指導課へは運営推進会議の代替としてホームの取り組みや運営状況をお知らせしたり、事故報告等で連絡を取っている。感染症対応(コロナ)における相談や連絡をおこなっている。2022年度実地指導の実施あり。	市の担当者とは日頃から何かあれば電話や訪問して相談し、いつも適切な助言や指導をもらっている。実施指導でもホームの実情をよく理解してもらい課題も話し合う等、連携を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束・虐待防止委員会」を設置して毎月1回、セルフチェックを元に具体的な行為について振り返り、日々の支援内容の見直しや共有をおこなっています。年2回の研修を実施。	今現在は身体拘束が必要な事案はないが、毎月虐待セルフチェックを実施して職員間で話し合っている。また年2回「虐待の芽チェックアンケート」も実施しており、職員の意識も高く日々身体拘束をしないケアに取り組んでいる事が確認できた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	6番同様に毎月1回、セルフチェックを元に具体的な行為について振り返り、時間を掛け話し合っています。小さな事でも話し合える環境を意識しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成見後見人制度について、ご家族様へ活用出来る様案内をさせていただき活用の際にはサポートさせて頂いています。また、権利擁護に関してはスタッフに虐待防止の基準説明と合わせて学ぶ機会を提供していますが、さらに深めていきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	読み合わせをおこない、お話を伺えるような環境と時間を作り、説明をさせて頂き、疑問点もお聞きするようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2022年度はWebを使った運営懇談会を行いました。毎月のお手紙や面会時、日々のケアの中でご本人ご家族様の思いを知れるよう関わりを大切にしています。お一人お一人の思いやご要望を生活プランへ反映しています。	写真を掲載した家族への手紙(レター)は担当職員が手書きで毎月一人ひとりの近況をお知らせしている。面会に来てくれた家族からの思いや感想を聞き、「生活感のある居室、居心地の良い空間作り」に取り組む等、家族からの意見や要望を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回定期面談を行なっている。また、日常の会話から職員の思いや意見、提案を聞き反映しています。スタッフアンケートを実施し結果についてスタッフ全員で振り返り、意見を聞きながら次年度へ向けた計画を図ります。	ミーティングや申し送りノートで情報共有や意見交換をして業務改善につなげたり、自社のエリア内での異動はあるが、新規職員3名に対しての新人研修もしっかり行っている。ホーム長発案の「ぶっちゃけトーク」は職員に好評で、コミュニケーションもよく取れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は大阪を拠点としているが日頃より相談できる環境であり、毎月の確認会、また年2回の評価実施の中で、個々の働き方ややりがいに繋がられるよう努めています。職員の状況に合わせて柔軟な対応を心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	数年後、自分はどうなっていたいか等ありたい姿に向けて個々の思いや力を見極めながら管理者は代表者と情報を共有しながら研修やステップアップを支援しています。 ・マジ神制度、資格取得支援等		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設と季節行事、防災訓練等を通して交流を図っていたが、コロナ禍のため実施が難しい。岡山の同法人内では、ありがとうカードの推進や認知症ケア、排泄ケア、食事サービスの取り組みをWeb環境を使って共有する場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前のアセスメントの際にはご本人、ご家族、病院や施設からご入居後安心した生活が出来る様、背景や歴史、好きな事、嫌な事、大切にしたい事等お話を深く伺わせて頂いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居に至った経緯、本人のお気持ち、ご家族様の思いやご要望をお話し頂けるよう丁寧にお聴き取りする事を意識しています。認知症になっても出来る事を続けその方らしく暮らして頂けるよう関係づくりを深めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントから見えてくるご本人のニーズと現状から重点サービス(具体的な目標)をあげる事で個々に沿ったサービス、必要な支援について見極め、必要に応じ変更、追加を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の持つ力を大切に「やりがい、自発性」を見逃さないこと、「共に生きる」ということを職員一人ひとりが感じながら、ご入居者とそれぞれの関わりをおこなっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	奥様や子供様、ご兄弟や後見人、様々なご家族の形がある中でお一人お一人の存在とお気持ちを大切にご家族にとっても第2の自宅のようなホームとなるようお支えすることを意識しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身近なご家族はもちろん、姪御さま、ご友人などこれまでのご関係や関わりを継続できるよう努めています。	毎月娘さんと専門外来へ定期受診をしているAさんは、少しでも長く続けたいという家族の要望もあり、娘二人と過ごす時間を大切にしている。面会制限を少し緩和しているので家族・親族・後見人等の面会もよくあり、家族と思い出の場所へ出かけて喜んでいる人もいる等、馴染みの関係性の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性を把握し、その時々々の関係性を鑑みながら個別支援や集団を通しての関わりを大切にしている。それぞれが支え合って生活できるよう人の支援に努め人の輪の中に入り同じ空間で過ごせるようサポートさせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療的な支援が必要となられたご入居者に対し、ご本人、ご家族が孤独にならないよう相談援助に努め、ご退去もその後の経過をご共有させて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしや背景、こだわり、大切にされてきたことを知り理解を深めることを大切にしています。認知症が進行し意思を伝える事が困難となられても日々の何気ない瞬間の中で自己決定、選択、自発性に重きを置けるよう取り組んでいます。	介護記録を見ると利用者の発言や行動、職員との会話がポイントをよく捉えて記録しており、その人の心理面・行動面が職員間で共有できる。例え言葉での意思表示が難しくなっても、表情や仕草から心の内を推測してその人の思いを汲み取ってあげる努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのご生活、馴染みのあるものは何かをご本人、ご家族様からお聴きしています。日々の生活の中での何気ない仕草や会話の中からも知るよう努めています。生活プランへ紐づけていけるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症の進行や心身状態の悪化が認められたとしても、やりがいや役割がある生活を実現できるよう努め、現状に合わせて変化することを意識しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思い、ご家族の思い、支援するスタッフの思いから【ニーズ】と【現状】を集め、生活プランを作成する取り組みを深めモニタリングをおこなっています。語る事が出来る場を大切にしています。	昨年9月にケアマネジャーの交代があり、ホーム長・職員と話し合いを重ねながらケアプランの見直しを行った。本人・家族の意向とニーズ・目標・サービス内容が見事に連動し、精神面を重視した思いや希望の実現に向けたケアプランになっている。	本人・家族の思いや希望をしっかりと受け止め、実現可能にしていくには日々のケアをどうするか話し合っている様子がよく分かる。素晴らしいプラン内容なので、今後ともその人の思いに添ったプランになるように期待している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録が紙ベースからシステム入力へ移行し気づきエピソードの記入が実際の実施に対し薄くなっているよう感じています。どうすれば記憶ではなく記録として残していけるか検討しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会や外出制限(ルール)がある中で、今必要な支援は何かを見極め、実施するにはどうしたらいいかを話し合い、その方が必要とする支援を実現できるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中、地域資源を把握し活用することがなかなか出来ていない状況ですが町内清掃や資源回収のコミュニティの中で力を発揮される方がおられるので、そういった機会を深めていきたいと思ひます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム協力医により月2回～4回の訪問診療を実施している。かかりつけ医と協力医と共に連携を図りながら適切な医療が受けられる様に支援をしています。	毎月定期的な往診もあり、訪問歯科による口腔ケアも実施している。家族と一緒に毎月専門外来へ受診に行く人もいるが、他科受診の場合、家族の付き添いが難しい人は職員が同行している。また、自社のエリア看護師にいつでも相談出来るので心強く、医療と介護がしっかり連携出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関・各主治医の看護職員へご入居者様の変化や気づきを相談し適切な受診や看護が受けられるように支援している。また自社のエリアを統括する担当看護師との連携も深く、相談できる環境にあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には主治医の紹介状と合わせて介護サマリを病院へ報告しています。入院中、退院時は他職種との合同カンファレンスで情報を共有する中で早期退院を実現することができ、結果ご本人の回復に繋がっていくよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と主治医と連携しホームで出来る事出来ない事を説明して理解を得ながら重度化や終末期の支援に努めています。またどのように過ごされたいか出来る限り深く話し合い支援できるよう努めています。ご本人が少しでも苦痛なく、またご家族の精神的負担を和らげることができるよう努めています。	ホームでの看取りを希望していたが医療処置が必要となり、本人・家族・職員等で何度も話し合い、結果的に他施設へ移行した例があったが、家族からは感謝の手紙をいただいた。「最期まで手を離さず見守りたい」という職員の言葉に真摯に向き合う姿勢を感じた。現在も重度化が進んでおり、ターミナルの人が1名いる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度の緊急時対応研修や入社時、その他ご入居者のご状態に合わせて実施。専門職を招いての勉強会をおこなうこともあります。また事故の再発防止の勉強会やコロナ禍において感染症対応にも力を入れています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回。夏季、冬季、(内1回は夜間想定)で防災訓練を実施しています。災害時の対応については、定期的な備蓄品確認、整理をおこなっています。	火災、水害、地震等を想定した防災訓練を実施し、初期消火、避難誘導、消防署への連絡、手順の確認、ハザードマップ、避難経路、備蓄品の確認等を行ったり、AEDの点検をしている。訓練後は職員間で意見や反省点を検証して次回の課題につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年次研修として「プライバシー保護」「情報セキュリティ」研修を実施していますが、日々のミーティングや虐待防止委員会においても細かく話し合うことを意識し、ロールプレイングでどう感じるかを職員が互いに話し合うこともあります。	個人情報の観点から、活動報告等の写真掲載時には顔を修正して載せている。また人格を尊重し、呼称や言葉遣いにも気をつけている。各居室にトイレが設置されているので羞恥心やプライバシーも守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の何気ない会話から見られる表情や行動を洞察しながらご本人様が選択できるよう、一人ひとりに添った意思を表現しやすい声かけに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	感染予防のための業務や介護度が上がり介助量が増えている状況はありますが、職員同士の声掛けやご入居者の生活の場であることを意識しながらお一人お一人のタイミング、ペースに沿った支援を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしい身だしなみから、生活の彩りや活気が生まれるような場面を大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「食の日」として、作って食べるだけではなく、食材に触れたり、季節の野菜や果物を感じて頂きながらご入居者と職員と一緒に準備、調理を行っています。	月2回の「食の日」には、ホームの畑で採れた野菜を使って料理やおやつ作りにチャレンジしている。今日の昼食はカレー。利用者数人が野菜を切ったりしてお手伝いしていた。普通食、キザミ、お粥等と食事形態も様々だが、楽しんで食事する事を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お食事・水分補給はその方の習慣や好みなどを大切にしています。主治医やご家族との相談や共有をおこなっています。食＝豊かな気持ち、生きる力を意識しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアのお手伝いをさせて頂いたり、必要に応じて義歯管理もさせて頂いています。また、訪問歯科を利用しながら、衛生士からの口腔ケア指導助言を受けながらケアにあたっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様の表情や仕草を読み取り支援を行うと共にトイレに座る習慣を大切にしています。移乗が難しくなってきた方も必ず1日1~2回はトイレに座ることを支援しています。	排泄が自立で布パンツで過ごしている人は1名いるが、殆どの方はリハビリパンツ、パット併用、テープ止め等をそれぞれの状態に合わせて使用しており、快適に過ごしてもらえるように職員間で個々に適した排泄用品を検討し合っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人様の排便状況を把握し水分補給やお食事量、服薬等を見ながら運動を促がすと共に飲み物や食品に配慮しています。生の果物や手作りヨーグルト・粕汁やきな粉等工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のスケジュールはありますがご本人の意向をお聞きしています。お気持ちが向かない際は無理に進めず曜日やタイミングを柔軟に変更しています。	個浴、シャワー浴、シャワーチェアで二人介助等、その人の状態に合わせて週2回~3回入浴支援をしている。全体的に重度化が進んでいるが、湯舟を跨いで入れる人もいるので、職員と会話しながらゆっくり入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居前の生活パターンとホームでの生活のリズムを合わせながら支援しています。その時の体調や心身の状態や快適な寝具、環境で安心して安らげる空間を大切にできるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師との連携や協力体制があります。ご入居者のささいな状況を相談しやすい環境です。ご年齢やご状態等に合わせて見直しや減薬の取り組みを始めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中に身近な物をちりばめ、自発性の瞬間がうまれるよう努めています。ご本人がやりたい事、興味を持たれた事を軸に支援に努めています。感謝の言葉をお伝えし共感することを大切にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍前、例年実施していた外出や外食が行えない状況ではありますが、近隣スーパーへの買い物や思い出のホテルでのひと時、地域の資源回収や掃除等の活動が増えています。	以前のような外出支援とまではいかないが、状況を見ながら徐々に出来る範囲で外出している。職員と一緒に車椅子でスーパーへ買い物に出かけたり、家族と思い出の場所への外出や受診に行く人もいて、個別の外出支援にも努めている。春は庭の桜の木の下で花見を楽しんでおり、散歩や日光浴、外気浴をして気分転換をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物がお好きなご入居者がお財布を持ちそこからお金を用いて好きな物を購入する機会が増えました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親せき、ご友人とお喋りを楽しむことが出来るよう支援しています。時に職員が間に入りながら大切な人との時間を支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の音や匂い、季節の花や心地よい音楽を意識しています。 台所での語らいやその時々季節や天気など施設内の自然な光を意識しています。	25周年を記念して皆で作成したマスキングテープアートの大きな絵がリビングに展示してある。リビングや坪庭を見ても「音・風・光」がコンセプトになっているのがよく分かり共用空間は採光も良く明るく開放的である。利用者の重度化が進み、活発とまではいかないが、それぞれが自分の好きな場所で思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の安心できる環境、居場所の視点から決まった席、場所がある場合や、臨機応変に移動するなどその時々状態や状況に沿いながら空間作りをおこなっている。窓際のソファやリビングにベッドを置きくつろげる空間を大切にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様から「生活感が欲しい、キレイな部屋過ぎると生活感を感じない」というお言葉を頂きました。お一人お一人にとっての居心地の良い空間について深めています。	馴染みのある家具や思い出の品々が持ち込まれ、まるで家庭の延長線のような生活感のあるインテリアになっている。どの部屋も家族の愛情がいっぱい感じられる写真や手紙等が飾られ、「やさしいお部屋だね」と喜んでくれる家族もいるそうだ。転倒防止に動線を考え家具や椅子の配置を工夫する等、居心地の良い空間作りに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人にとってホーム全体が「家」という認識で居室番号やお名前が設置していませんがご自分の部屋が分かる方が多くおられます。		